

## ● 組手什の組み立て方のコツ ●

いきなり組み立てないで、この資料をご一読ください

組手什の取扱いは慣れてしまえばとてもカンタンですが、木を扱う上での“ちょっとしたコツ”や注意点があります。

### ■組立を行うまえに

- ・ 材料を同じ部材ごとに、ズラッと並べてみてください。
- ・ 木材は一本一本風合い（色味、節の状態）が異なります。
- ・ 特に棚の縦木になる部材は、風合いが異なる物が混ざると完成したときに違和感が生じます。（時間の経過と共に同化してきますが...）
- ・ ですので、ズラッと並べてみて
- ・ 材を上下したり、裏表を替えて見たりしながら材の並び順を決めてください
- ・ どうしても気に入らない材があるときには、棚のレイアウトを確認して、人目にふれにくい面に使うようにしてください
- ・ 棚の横木は節（特に黒っぽくてへこみのようにになっているもの）があると商品や本を陳列するときに節に引っかかるかもしれません。  
こういう材は裏返しして節の無い面を表にしたり、棚の奥や下の棚に使うとよいでしょう



材の配置次第で、印象がガラリと変わります  
配置に正解はありませんが、よく吟味してから組み立ててください

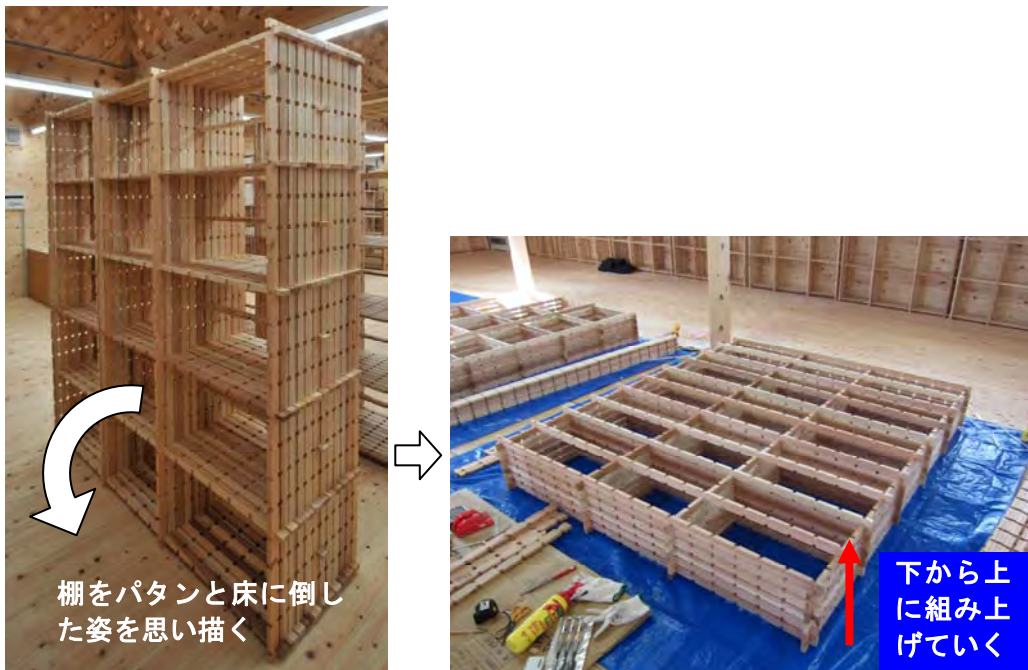
## ■組み立て場所の準備

- ・広いスペースが必要です
- ・床の上にクッション性があるもの（段ボール）を敷き、その上にブルーシートを敷くとベストでしょう
- ・軍手は忘れずに

## ■組み立ての基本

▽ 組み立てる物が棚だと仮定します。

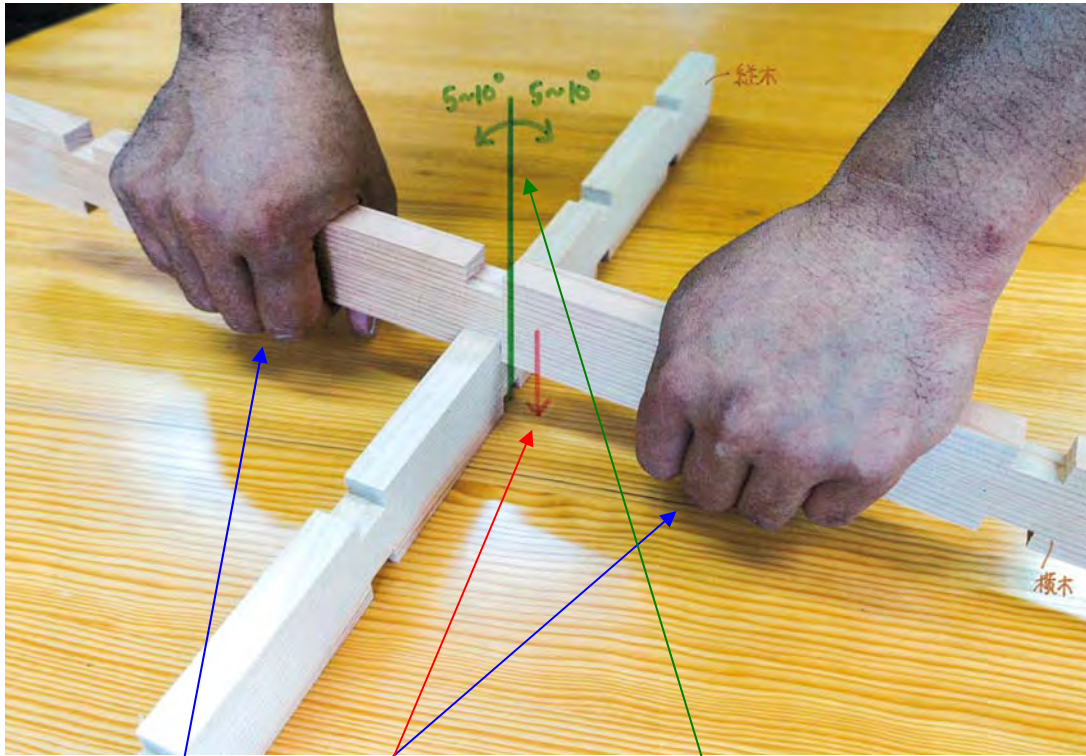
- ・完成した棚をイメージしてください
- ・その棚をパターンと床に倒した姿を思い描いてください
- ・一段ずつ、下から上に縦木→横木→縦木→横木 …… と、組み上げていきます



▽ 一人だと組立にくいです。最低二人一組で組み立てる事をお勧めします



組み立てるものの両側に人を配置して、一本ずつ作業をすると組立やすいです

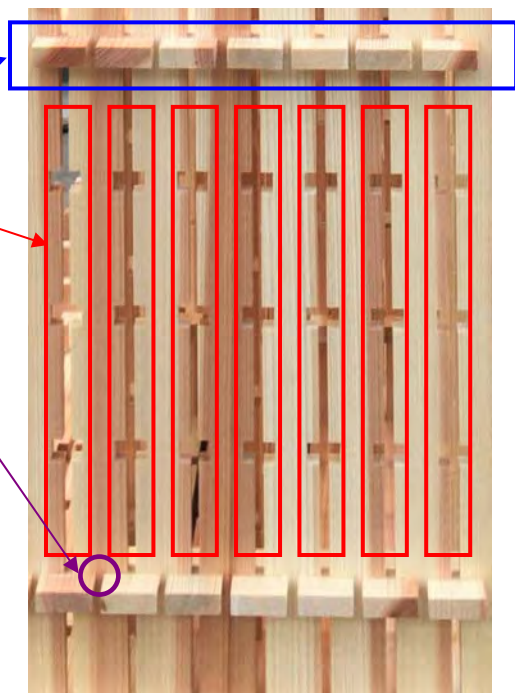


### ■縦木に横木をはめ込む場合

- ① 接着剤で固定する場合は  
縦木の凹と横木の凹の両方に木工ボンドを少量つける
  - ② 横木の両端をしっかりと持つ
  - ③ 縦木の凹と横木の凹の位置がずれていないかを確認
  - ④ 横木を前後に軽く (5~10° 程度) 揺らしながら (緑色)、まっすぐしっかりと下に押し込んでいく (赤色)
- ※ どうしてもはめ込みにくい場合には、当て木をした上でトンカチ等で横木の上から叩いてください

### ■チェック事項

- ⑤ 組み立てていきながら、適宜以下の点を確認して進めてください。
  - ・横木がまっすぐはまっているか (斜めになっていないか?)
  - ・縦木と縦木の間隔がすべて同じか? (しっかりとハマっていないと隙間が不均一になります)
- ⑥ 無理に押し込んだ場合、接続部分に木のトゲが出る場合があります。カッターで取り除いてください



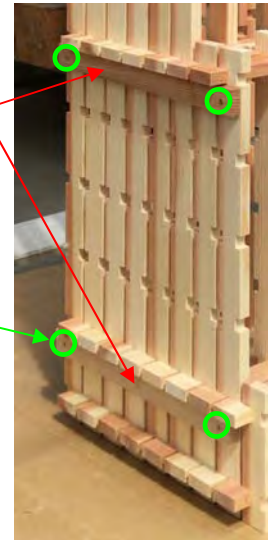
## ■分解防止の為に

組手什は基本的には、組み立て→分解→再組み立て ができる事に特徴があります。そのため、長期間や色々な人が利用する場面では部材が外れてしまうことがあります。

分解しない事を前提にするのであれば

- ① 組手什の凹と凹に木工ボンドを少量つけて組み立てる
- ② 組み立て後に分解防止の為の材をとりつける（両端をコーススレッドで固定）

とよいでしょう。



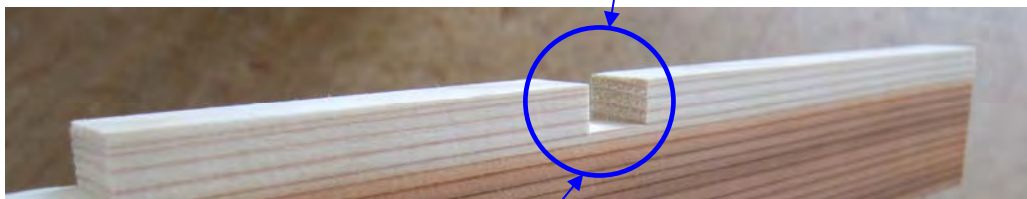
## ■毛羽立ち

組手什の木材は柾目取（まさめどり）と言って、年輪が長手方向にスッと伸びています。この柾目取によって長期間使用しても、ねじれや反りが起こりにくくなります。

しかし、柾目取は木が裂けやすい性質があります。

人が触れる部分は、毛羽立ちにより木が手に刺さる可能性もあります。

毛羽立ちの部分があれば、納品時や使用期間中でも、こまめに紙やすり等で木肌を整えてください（あまり強くヤスリをかけると、材の角が丸みを帯びてしまい意匠的に良くないかと思われま



特に凹の部分から木が毛羽立ちやすいです